

レーヴチャレンジカップへの想い

子ども達に夢を追うチャンスを



レーヴチャレンジカップは、知的障がい者・発達障がい等を持つ児童・成人を対象としたフットサル大会です。「レーヴ」というのはフランス語で「夢」という意味。夢を持つこと、夢に挑戦すること、そしてスポーツを通して仲間とつながることで楽しさや喜びを重ね、社会生活を豊かにしていくことを目的としています。今回は、この大会に込められた主催者、そして支援者の想いにせまります。

非常に緊迫し迫力のある試合。スポーツに健常者も障がい者も関係ない事を実感しました

子ども達の可能性を知ってもらおうきっかけに

2016年9月25日、秋晴れの当日を迎えたレーヴチャレンジカップ。会場である京田辺市立中央体育館には関西から10チームが集まり、保護者やスタッフの応援の中、真剣な試合が繰り広げられていました。一見普通のフットサルの試合ですが、この試合には、知的障がい者・発達障がい等を持つ方々が出場しています。選手たちのプレーを見てると何が障がいなのか分からないほど。今回は、この大会の大会長である(有)ライフアシスト代表 井山さん、スポーツ事業部主任 小笠原さんにお話を伺いました。



大会の主催者 ライフ・アシスト代表 井山さん

井山 彼らはなかなかスポーツ教室に通えないんです。入れたとしても周りとうまくやっていけずに親御さんがやめさせるケースが多い。それでは前に進めないで、今から6〜7年前に立ち上げたのがサッカー教室でした。その時はボールはなくすし、笛を吹いても止まらなかったのがだんだんと慣れてきて、3年前にチームを作りました。その時に障がいを持つ児童のスポーツ大会がほとんどないことを知り、関西のチームに呼びかけ、昨年、第1回目を開催しました。大会を開催するにはまず「子ども達のことを知ってもらいたい」という思いが一番にあったので、広めるために協賛金を募るという方法で私たちの想いをお話しました。みなさん理解してくれて、去年も今年も協賛金のみで運営させていたれています。小笠原 地元の企業や個人のみならずの協力があったら、大会を運営できているということはとてもありがたいです。子ども達もいまは中学生、高校生になり、



ライフ・アシスト 小笠原さん

大会を支援する人々

そういった周りからの支援や協力を感じられているようです。レーヴチャレンジカップはたくさんの方々の協力のもとに開催されています。大会の運営やロゴマークの制作を担当したのは同志社大学スポーツ健康科学部の田中絃正さん率いる学生団体Eggのみなさんです。

田中 僕らは彼らのことを、障がいがあるとは思っていません。特性があるのだという意識で関わっています。レーヴチャレンジカップのような大きな大会で、ロゴを作ったり、運営にここまで関わることができのにはありがたい機会です。小笠原 私たちがなぜ学生と一



激しく当たりボールを奪合う選手たち
チアリーディング「リトルエンジェルス」が選手たちの応援に駆けつけました
運営委員会が企画された大会記念グッズ
優勝は奈良県の奈良クラブバモスAチーム



華麗なテクニックで得点し喜ぶ選手たち



大会のロゴマークは学生ボランティア団体Eggのみなさんによるもの

緒に運営しているかというところ、彼らのクオリティが高いからです。細かく説明をしなくても運営に関する配置や負担などを自分たちで考えてやってくれます。今回のロゴも大会のコンセプトを理解し、制作してくれました。彼らのような団体ももっと表に出て、評価されてほしいですし、継続的にどんどん付き合っていきたいと思っています。

大会もどんどん進んでいき、準決勝の試合に差し掛かるころでスタッフのひとりであり、今回出場しているチームの監督もされている、FCティアモ枚方の村島さんにもお話を伺うことができました。

村島 一番初めのサッカー教室で小さな頃から教えている子ども達をずっと見てきて、初めは挨拶もしなかった子がきちんと挨拶をし、スポーツを通してここまで成長できたことがすごいことだと思っています。



FCティアモ枚方 村島さん

障がいのあるなしに関係なく、叱るときは叱るし、一対一の人として対応しているという村島さん。この日は彼のチームが勝ち進み、急ぎ足で試合に戻られました。

支えられる側が支える側になる

井山 私たちも何かしら障がいを持っています。例えば私は視力が低く、コンタクトをしていないと良く見えません。これも障がいです。眼鏡をかけている方もそうですね。でも眼鏡やコンタクトがあれば普通に生活できる。私たちは障がいを持つ子ども達の「眼鏡」になりたいと思っています。そうすれば彼ら

の障がいは不自由ではなくなるんです。大会を通して人に見られる機会があると、プレーを褒められたり、「よかったな」と認めってもらえるわけです。彼らはそういう機会が不足していますし、「劣等感」にさいなまれて生きてきている子たちなので、何もはずかしいことはない、胸を張って生きていける子たちなんですよ、と知らせたかった。みなさんに称えられたらきつと彼らは変わるだろうし、変わってほしいと思います。例えば企業が見に来てくれてこんなことができるんやと分かってくれらしたら、それが「就職」にもつながるわけです。卒業生の中には一般企業に就職した子もいます。皆が自立して社会に貢献し

ていけるようになってほしいです。彼らが活躍できる場があったら支えられる側が支える側になったら親も安心ですよ。ていけるようになってほしいです。彼らが活躍できる場があったら支えられる側が支える側になったら親も安心ですよ。



3位に輝いた地元京田辺で活動するQC:パロントン(京都府代表)の皆さん

第2回 京田辺レーヴチャレンジカップ 関西大会 順位

下記の結果となりました
また次回も皆さんの活躍を期待致します

- ◆優勝 **奈良クラブバモスA**
- ◆準優勝 **ブルーダイヤモンド和歌山FC A**
- ◆3位 **QCパロントンアン**
- ◆4位 **アイディ大阪 イエローA (大会会長賞)**
- ◆5位 **奈良クラブバモスB (フェアプレー賞)**
アイディ大阪 ネイビーB (健闘賞)

優勝チームには 優勝カップ・賞状・メダルを授与
準優勝・3位には 賞状・メダルを授与
各賞には 賞状を授与いたしました

◆優秀選手賞 各チームより1名づつ選出いたしました
※それぞれにメダルを授与致しました